四日市中央工業高校との産学共同実習の実施について

三重県連

三重県水道工事業協同組合連合会（藤原和彦会長）は六月十六日、四日市中央工業高等学校（岡村芳成校長）が立ち上げたキャリア教育の一環である「産学共同実習」に参画し、同連合会及び（一社）三重県管工事工業協会から藤原会長ら四名の役員が設備システム科四十名の実習において、鋼管と塩化ビニル管を接合する作業を指導した。

指導を行う三重県連の藤原会長（左から2人目）

同校が今年度より開始した産学共同実習は、業界団体主導で通常実習を行い、通年で実習授業を通してキャリア教育を行っていく新たな実習形態。具体的には、企業側が実習を行い、技術習得をし、職業慣習を養い、職種選択の拡充を行う授業。通常授業から、企業側とコミュニケーションを図ることで、職業意識を高め、日々考えることでミスマッチをなくすことを目的としているため、若年層の入職が課題の企業側にも授業を業界説明とリンクさせてアピールする場として活用できるメリットがある。

実習は報道機関にも公開され、専門紙のみならず一般紙でも多数紹介された。

藤原会長は「実習を通じて管工事業界に挑戦する気持ちが芽生えてくれれば」と期待を示した。